

諏訪神社の祭礼である長崎のおくんちは、長崎でも神輿のある町に住んでいる者にしか参加できません。僕の町には神輿がなかったから、見に行くだけでした。おくんちに参加できる同級生たちが、すごく格好良かったことを覚えています。それでも毎年参加できるわけではなく、3年くらいのインターバルがあって巡ってきます。その間も大変な思いで準備しています。半年くらいかけて体を鍛えもするので、だいぶ熱も入ります。おくんちに参加したいのはやまやまですが、見ているだけでも十分楽しいです。

父は市内で岩綿吹き付けの仕事をしていました。家を継ぐという話は無かったのですが、全く関係ない分野に行くよりは良いと思い、長崎総合科学大学の建築学科に進みました。大学に入学する3~4年前、雲仙普賢岳が噴火しました。そのため、卒業研究には「大きな被害を受けた島原の町をどうしていこうか」というテーマを選びました。研究チームの皆で現地に調べに行った思い出があります。

建築の勉強は楽しかったですが、中国や韓国などのアジアの留学生たちの建築デザインがとても素晴らしく、「これを職にしたいのかな」という不安が芽生えました。結果的には俳優になりましたが、長崎を題材にした映画にはすべて出演したいですね(笑)。また、長崎が盛り上がるイベントなどには参加してお手伝いしたいです。

長崎の建物にはイギリス様式の旧グラバー邸などがありますが、やはり街を歩くと中国などのアジアの様式が目につきます。東京や大阪の街と比べると、そういう建物が多いです。京都や奈良に比べたら「ザ・日本」みたいな建物が少ない気がします。長崎では和風でありながら、少し洋風が混ざっていたりする折衷系が多いです。「ちゃんぽん」は有名ですが、語源は「色々な物を混ぜる」という意味です。長崎の建物も「ちゃんぽん」みたいな乗りなのかもしれません。食べ物の話になったついでに言うと、長崎の料理は酸っぱい、甘い、辛いで言うと、やはり甘めが多い

ですね。お菓子を食べるような甘さではなく、僕は好きです。「長崎の料理は美味しい」と、胸を張って言っています。

長崎は坂と石畳が多い街です。車が通れないたくさんの路地が好きです。そういう路地は自転車も乗れず、歩くことしかできません。自転車では本当に不便できつい街で、一生乗らないままの人もたくさんいると思います。しかし、最近の電動アシスト付き自転車だったら大丈夫かもしれません。

そんな長崎を見下ろすことのできる稲佐山から眺める長崎湾や街並みの夜景は素晴らしいです。対岸にある大波止には昔、煉瓦造り倉庫がずっと並んでいました。今は綺麗に整備されてしまいましたが、その場所を、大好きなビートルズの出身地リヴァプールの街並みだと勝手にイメージして、とても気に入っていました。また、思案橋の電停がある一角は、長崎っぽくて好きです。いい感じのところ、大きく変わってはいません。

実家にある昔のアルバムを開くと、よく通る場所も今は様子が全然違っていています。今は少し豊かで便利になってきていますが、「これを残して、新しいものをうまく融合できないのか」と思うことがあります。長崎を離れてしまったので、昔の長崎がそのまま残っていて欲しいという思いがありますが、長崎に住んでいる人からすると、何もない長崎よりも、やはり多くの建物や店があり、いろいろなことができる場所になって欲しいという思いが強く、その辺の折り合いは難しいのだと思います。

そんな長崎出身のせいか街の特徴が残っている国に行くと、風景や街並みを見て、楽しい気持ちになります。最近、トルコのイスタンブールに映画の撮影で行きましたが、海がすぐそばで坂が多くあり、長崎っぽく感じました。イスタンブールも、東西文化の接点であるのでそう感じたのかもしれません。

稲佐山から望む夕暮れの長崎港と街並み (写真:金野拓朗)

特集
長崎

MESSAGE

私にとっての「長崎」



金子 昇
KANEKO Noboru

プロフィール

俳優(オスカープロモーション所属)。1974年、長崎県長崎市出身。長崎総合科学大学工学部建築学科卒業。大学卒業後は大阪で会社員をしていたが、役者を目指して多くのオーディションに挑戦し、「百獣戦隊ガオレンジャー」(テレビ朝日)で注目を集める。その後、映画、ドラマ、バラエティ、舞台と幅広く活躍している。現在は、黒木瞳初監督作品「嫌な女」(松竹)に出演している他、「高校講座 化学基礎」(Eテレ)でレギュラー出演している。特技はビリヤード、料理、ゴルフ。長崎市観光名誉大使の一人。また「2013長崎ランタンフェスティバル」の皇帝パレードの皇帝役に登場した。